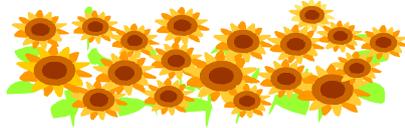


ひまわり通信

43 平成 18 年 12 月 22 日
新潟市立東青山小学校
児童数 649 人
(231)9611 fax(231)9623

いのち輝く子ども



<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/>
<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/i/> (携帯用)
E-mail h-aoyama@niigata-inet.or.jp

ひまわりタイム(教育相談)

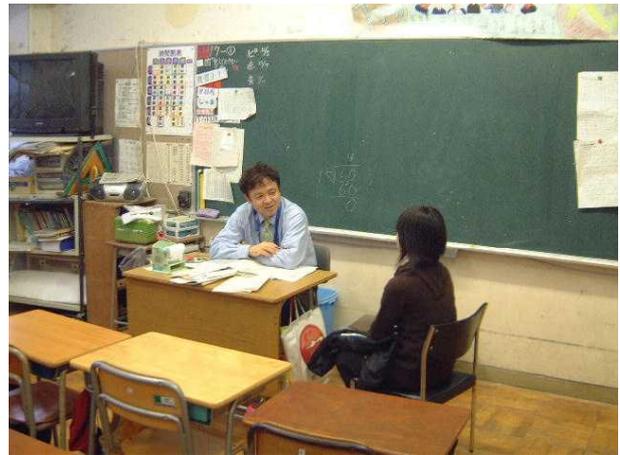
4月、7月に続き、今年度3回目のひまわりタイムを12月上旬に実施しました。今回は、特に児童アンケートの資料を基にして、困っていることはないか、親身に、そして丁寧に相談を行いました。

児童アンケートによると、「学校で嫌なことを言われたりされたりしたことはありませんか」の質問に、「なし」と答えた児童は384人(60%)でした。つまり、悪口や仲間はずれなど嫌なことをされた児童は約40%いるということになります。また、「そのことをだれに相談したか」の質問に、友だち(48人)両親(47人)先生(43人)がほとんどであり、相談しない児童も122人いました。担任からの聞き取りで初めて悩みを打ち明ける児童もいて、ひまわりタイムは児童の心情を受け止めるよい機会となりました。困ったことがあったら、だれにでもよいからすぐに相談するように、今後も働き掛けていきたいと思えます。また、児童とふれ合う時間をできるだけ多く取り、児童の心の変化をいち早く察知するように努めてまいります。

裏面に、少年の主張全国大会の記事の一部を抜粋してあります。この「命のバトン」について22日の全校朝会で紹介し、命の大切さについて児童に話しました。心臓の鼓動は「いのちの音」であること、皆さんの命は自分一人のものでないことなど、リレーのバトンパスを例にして分かりやすく伝えたいつもりです。児童は、どのように受け止めたことでしょうか。

お子さんにどんな話があったか聞くなどして、「いのちの大切さ」について、ご家庭なりに話し合うきっかけにしていただければと思います。

よいお年をお迎えください。



【第37回ジュニア展】 奨励賞

- | | | | |
|----|------|-------|------|
| 1年 | 坂内佑輔 | 是方真悠子 | 田中裕樹 |
| 2年 | 新国 碧 | 白川凌太郎 | |
| 3年 | 広川裕太 | | |
| 4年 | 頓所侑夏 | 渡辺優子 | |
| | 栗崎雄太 | 高島理沙子 | |
| 6年 | 本間大貴 | | |

【1月の行事予定】

- | | | |
|--------|--------------|---------|
| 9日(火) | 全校朝会 | 授業3限 |
| 10日(水) | 体育用品販売 | 書き初め |
| 11日(木) | 全県学力検査 | (4年生以上) |
| 12日(金) | 全県学力検査 | (4年生以上) |
| | 委員会 | |
| 17日(水) | B5時程 | |
| 22日(月) | 校内書き初め展 | (~26日) |
| 24日(水) | 一日学習参観日 | |
| 26日(金) | 委員会 | |
| 31日(水) | スクールカウンセラー訪問 | |

第 28 回少年の主張全国大会が 11 月 12 日に行われ、内閣総理大臣賞を受けた鹿児島県始良町立山田中 1 年新園祐花さんの主張の一部が「内外教育第 5697 号」(時事通信社)に記載されていました。すばらしい内容でしたので、紹介いたします。

出産 5 か月前、母体に異変が起きた。卵巣が腫れて、出産は母子共に危ない。卵巣除去か、出産をあきらめるか。除去に踏み切る。胎児への配慮で麻酔は少量。痛みをこらえて「母は手術を乗り越え、私が無事に生まれたのです。」

「どうして母は、私を選んでくれたのか。母にとって、お腹に宿る小さな命とは、どんな存在だったのか。私も大人になって子どもを産む時、母の本当の気持ちが理解できると思います。」

「この世に生まれた命は一つとして同じものはなく、一つ一つの命にたくさんの思いや愛情が寄り添っているのです。命は心から生まれ、心で育てられるものだと思います。私は、『命のバトン』を心で受け継ぐことのできる一人の人間でありたいと思います。」

「与えられた、かけがいのない命を、いとも簡単に奪う事件が後を絶ちません。そこに心なき人間を感じます。機械や物のように、必要か必要でないかで、人を判断する人間。スイッチでリセットできないものが命。今の子どもたちに必要なのは、物でなく愛情なのです。本当の愛情を知った時、人の痛みを理解できるようになると思います。」

母の強さと愛情に、体中が「ありがとう」でいっぱい。「命を育てる母親の強さ」から訴える。

文部科学大臣からのお願い

お父さん、お母さん、ご家族の皆さん、学校や塾の先生、スポーツ指導者、地域の皆さんへ

このところ「いじめ」による自殺が続き、まことに痛ましい限りです。いじめられている子どもにもプライドがあり、いじめの事実をなかなか保護者等に訴えられないとも言われます。

一つしかない命。その誕生を喜び、胸に抱きとった命。無限の可能性を持つ子どもたちを大切に育てたいものです。子どもの示す小さな変化を見つけるためにも、毎日少しでも言葉をかけ、子どもとの対話をしてください。

子どもの心の中に自殺の連鎖を生じさせぬよう、連絡しあい、子どもの生命を護る責任をお互いに再確認したいものです。